

日本医史学雑誌 第四十四卷第一号 目次

原著

憑きものの現象論——その構造分析(上)	岡田 靖雄	三
モーゼス・マイモニデスの生涯(上)	泉 彪之助	三七
香川修庵の「儒医一本」の儒について——『大学叢』を中心として	町 泉寿郎	四七
『酬医頓得』に見られる田代三喜の医説(二)——「牛八」、「三婦」の意義	遠藤次郎・中村輝子・梁 永宣・奈倉道治	七三

資料

手塚良斎『医学所御用留』(二)	深瀬 泰旦	九一
天保十三年、京都滞在中の小島宝素の書簡	町 泉寿郎	九七
池田文書の研究(十六)	池田文書研究会	一三

追悼

久志本常孝先生を悼む	深瀬 泰旦	一三七
中川米造先生 七十一歳の死	長門谷洋治	一四〇
山中太木先生を偲ぶ	杉立 義一	一四三
名誉会員加藤豊明先生の遠逝にあたり	岩治 勇一	一四四

記事

消息		
「近世の医学と福岡の医家」展報告	佐藤 裕	一四六
「種痘医 北城諒齋顕彰碑」除幕式	日野原 正	一四七

例会抄録

順天堂大学医史学研究室所蔵、吉益東洞自筆『古書医言』について
 土佐藩足輕・岡本兵衛の戦病死について
 ビタミンの発見に対する漢方医学の貢献
 齋藤玉男——断種法史上の人びと(その一)

紹介

石島弘著『水戸藩医学史』
 織田五二七著『杏仁浪漫日本医学外史 古医方より蘭方まで』
 日本眼科学会百周年記念誌編纂委員会編『日本眼科学会百周年記念誌』
 アン・ハドソン・ジョーンズ編著『看護婦はどうみられてきたか』
 小曾戸洋著『中国医学古典と日本書誌と伝承』
 タイモン・スクリーチ著、高山宏訳『江戸の身体を開く』
 藤野尊編『歴史のなかの「癩者」』

館野正美
 中西淳朗
 山下政三
 岡田靖雄
 真柳誠
 津田進三
 奥沢康正
 坂本玄子
 篠原孝市
 真柳誠
 中西淳朗

〈本号の表紙絵〉

ワルエルダ解剖書

この解剖書(1647年、アムステルダム版)は九州大学医学部附属図書館が所蔵しているもので、図書館三階の展示室に Vesalius の「ファブリカ」や Paré の「パレ全集」などととも展示されている。

ワルエルダ(Joan Valuerda de Hamusco)はスペイン出身であり、16世紀の中頃にヴェサリウスが打ち立てた近代解剖学をスペインに初めて移入し広めた医家である。

ワルエルダの解剖書の原典は Historia de la composicion del cuerpo humano escrita por Joan de Valverde de Hamuco, Roma, 1556, fol., impressa por Antonio Salamanca y Antonio Lafrej というタイトルであり、ヴェサリウスの「ファブリカ」を底本にしなが、1556年にローマにおいてスペイン語で出版したものである。右図(自らの皮膚を剥ぎ示す筋肉男で、「エコルシュ」と呼ばれる)は、ワルエルダ独自のものである。

解体新書の扉絵は、このオランダ語の訳本(1568ないし1614年刊のアントワープ版)の表紙絵から採ったものと推測されている。

ここに掲げた「ワルエルダ解剖書(アムステルダム版; 1647)」は、岩熊哲氏の考証(岩熊哲著、「解体新書を中心とする解剖書誌」、昭和18年、婦女新聞社刊、東京)によると、昭和初期(昭和4年、大阪朝日新聞社主催の開国文化大覧覧会に、「和蘭解剖書」として出品されている)に松江市の篤志家桑原羊次郎氏が所蔵されていたもののように、現在本書の来歴を調査中である。(佐藤 裕)